

入浴時、服を脱ぐのを嫌がる…

⇒入浴のメリットを前面に出すようにしましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

“裸を人に見られたくない”と思うのは、どなたでも考えるごく自然な気持ちで、認知症の人にもよくみられます。介助する人が無理に服を脱がせようとすればするほど、意固地になります。

認知症の人は、自分一人で服をうまく脱ぐことができなくなっている場合があります。だからといって、人に脱がされるのは怖いと感じていて、それが脱ぎたがらない原因となっていることが考えられます。もともと羞恥心の強い人などは、人前で下着姿になったり、さらに下着を脱いだりすることなど、とてもできないと考えるようです。

まして、認知症のために家族の顔がよくわからなくなっている状態なら、家族であっても“見知らぬ人”。そんな見知らぬ人に裸を見られるのは恥ずかしい、と感じてしまうのも当然です。

【 対応方法 】

①「入浴すれば気持ちよくなりますよ」というように、入浴のメリットを前面に出すようにしましょう。

気分を害してかえって意固地になり入らなくなることが多いです

「体が汚れてきたからお風呂に入ったほうがいい」



②普段から、なるべく着脱しやすい服を着るようにして、自分でできる限り脱いでもらうようにしましょう。

はぎ取られると思って拒否反応が現れます

周囲の人が強引に服を脱がせようとする



③おしゃれた人や、身ざれいにするのを好む人

⇒「外出するのできれいにしましょう」

「お客さんが来るので身だしなみを整えましょう」

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P90-91



2022.6作成

医者に診察してもらうときは、身ぎれいにし、下着も清潔なものに着替えておかなければならない、と思っている人が多いものです。認知症になってもこの気持ちは働きます。

⇒「今日は受診の日ですね。〇〇先生にお会いする前に体を洗っておきましょう」

と言うと、素直に入浴してくれる場合があります。



入浴を嫌がる理由が、“裸を見られるのが嫌だ”というように、はっきりしている場合は、下着をつけたままの入浴をおすすめします。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P90-91

2022.6作成

ケアのコツ… “事実” と “解釈” を分ける



たとえば、本人が「寒いからお風呂に入りたくない（事実）」と言ったとき、「お風呂を嫌がる（解釈）」と捉えると、次に「お腹が痛い（事実）」からお風呂に入りたくないと言ったときも、「やっぱり嫌がる（解釈）」となってしまいます。本人の言葉（セリフ）を“事実”と“解釈”に分けて聞くと、ケアのヒントが見つかりやすくなります。

参考文献：ペホス, “理由を探る” 認知症ケア, 株式会社メディカル・パブリケーションズ, 2014, P111-113



認知症疾患医療センター
TEL 029-847-9581